

登録コード	SF515300	開講年度	2026				
授業題目	群集生態学					担当教員	山本 雅道
英文授業名	Community Ecology					副担当	榊原 厚一
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限	対象学年	3年
講義室	理学部第7講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	
						備考	自由
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	26Sカリ, 25Sカリ, 24Sカリ, 23Sカリ						
	【2023年度以降加付対象】理学の各分野における専門知識					地球上のさまざまな事象と生物群集の関連性を学ぶ	
	【2023年度以降加付対象】専門知識や観察・実験などによって問題を理解・解決し、その成果を的確に他者に伝える力					環境や地球上の問題を理解し解決方法を考え、成果を的確に他者に伝える力をもつ	
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース						
(4)授業の概要	生息場所等の外部環境の違いによって、どのような生物群集があるのかできるのか、群集の種構成や種間関係などから明らかにする。						
(5)授業のキーワード	動物相、長野県、生活の場、物質循環と動物群集、クマ、キシャヤスデ、川、諏訪湖、木崎湖						
(6)授業計画	1回 生態学の概念 1.生態学の流れ 2回 2.群集のとらえ方（群集の範囲と生態系） 3回 3.生物間の関係（寄生虫の話等） 4回陸上の生物群集 1.森林の生物群集 群系と日本の森林・森の生物 5回 2.土壌内の生物群集 6回 3.キシャヤスデの生物学 7回 4.クマの生物学1. 分類、生態、 8回 2.長野県の現状 保護 9回 川と湖の生物群集 1.川のみかたと生物群集 10回 2.河川内の生物群集1. 水生昆虫 11回 3.湖の成因と日本国内の分布 12回 4.湖の生物群集1.諏訪湖 13回 2.木崎湖 14回 3.その他 15回 まとめ 1.それぞれ場における物質循環と生物相のかかわり。 16回 2.テスト（授業のふりかえりを入力する） 都合により、順番が入れ替わる場合もあります。						
(7)成績評価の方法	随時のレポート提出と、最終回のテストの成績で判定する。						
(8)成績評価の基準	レポートを40%、試験の結果を60%とする。これらを合わせた成績が、60%未満は不可、60%以上70%未満は可、70%以上80%未満は良、80%以上95%未満は優、95%以上は秀と判定する。						
(9)事前事後学習の内容	高校の教科書の生態分野についても見直しておくこと						
(10)履修上の注意	「生態学入門」、「生態と環境」等の知識が必要である。						
(11)質問、相談への対応	C605に直接来て下さい。 メールでの質問も可能です。						
【教科書】	プリント配布の予定。						
【参考書】	生態システム学 , の教科書、参考書 岩城 訳：「生態学キーノート」 シュプリンガー・フェアラーク東京 日本生態学会編：「生態学入門」 東京科学同人 沖野外輝夫：「湖沼の生態学」、「河川の生態学」 共立出版 佐藤他編：「群集生態学の現在」 京都大学学術出版会 花里孝幸：「ネッシーに学ぶ生態学」岩波書店 藤田紘一郎：「不思議な寄生虫」日本実業出版社 白石芳一：「湖の魚」 岩波書店						